

平成二十九年年度

金子兜太先生のふるさと投句 第二回特選・入選作品

選者 榎本順江 根岸茉莉 石木戸雅江

特選

巨星落つ枯野の青む夢を見て

上尾市

高橋 靖史

講評

二月二十日金子兜太さんが逝去されました。俳句界の革新と平和の尊さを訴え続けた真つ直ぐで、優しく気さくな人柄は多くの人を魅了していました。訃報を聞いて作者の頭に先ず浮かんだのは、巨星落つ、だったと思います。枯野が春に美しい緑の野になるように平和な世界になることを夢見ながら永遠の眠りについたであろう兜太さん。それを万感の思いで受けとめた作者。胸が熱くなる、深みのある追悼句です。

蕎麦掻きを小昼飯にす山家かな

皆野町

新井 民子

講評

小昼飯は、午後三時頃の間食大人のおやつです。蕎麦掻きは、蕎麦粉に熱湯を注ぎ手早くかき回すと出来あがり醤油や薬味をかけて食べます。仕事の合間家に戻っての小昼飯、忙しい中に簡単に出来てしかも美味しい蕎麦掻き、多分自家製の蕎麦粉でしょう。格別な味の小昼飯で一休みして又夕暮れ迄の仕事に精が出ます。

兜太逝く今も聞こゆる踊唄

秩父市

設楽 キマ

講評

兜太さんの成長を培った産土、それは少年時代いつも身近にあった秩父音頭抜きには語れません。兜太さんは作者にとって大きな誇りでした。旅立たれてしまった空虚感の中で新鮮に甦ってきた素朴なリズム、踊唄である秩父音頭が唄われる限り、私たちの中に兜太さんはしっかりと生き続けてゆくことでしょう。

入選

大人の部

結願の杖を納めて初紅葉

さいたま市

増田 信雄

山窪の屋根のこみ合ふ冬山家

長瀬町

野口 清

今頃は夢の春野を兜太翁

横浜市

溝田 俊雄

蝉鳴くや兜太の里の水潜寺

新潟県

坂西 直弘

木洩れ日を拾ふや秋の川明かり

さいたま市

田村 欣也

魂こもる兜太の句碑に芽吹きの香

小鹿野町

原島 勝子

代々に続く味噌蔵梅ふふむ

秩父市

町田ヨウ子

兜太句碑秩父の東風に息つけり

群馬県

佐藤 安代

小人の部

あじさいがおおきくなってトランポリン

深谷市

小林 郁登(六歳)

かげ見るといるはずのないもうひとり

東京都

野村 直宏(十歳)

美の山は雲海きれいいた星空も

皆野町

高橋 優里(十歳)

俳句愛好家の皆様へ

平成19年より実施いたしました、金子兜太先生のふるさと投句事業は平成30年2月28日をもって終了いたしました。これまで、多数のかたにご応募いただきありがとうございました。

皆野町商工会